



研究発表会
参加者のみ
ご参加可能

低線量率被ばく影響の 新たな知見と今後の課題

日時

7月4日(木)14:15~16:45

場所

東京大学弥生講堂一条ホール(文京区弥生1-1-1)

座長 山田 裕 氏(量研・放医研 福島再生支援本部)
柿沼 志津子 氏(量研・放医研 放射線影響研究部)

(1)放射線疫学調査に潜む誤差

工藤 伸一 氏(放射線影響協会 放射線疫学調査センター)

(2)ラット乳腺発がんの線量率効果と年齢依存性

今岡 達彦 氏(量研・放医研 放射線影響研究部)

(3)セシウム137の慢性的経口摂取で多世代にわたり

低線量・低線量率内部被曝を続けた

子孫マウスの発がんゲノムへの影響

中島 裕夫 氏(大阪大学 放射線科学基盤機構)

(4) *Ptch1*ヘテロ欠損マウスの髄芽腫発生モデルの

放射線シグネチャーを用いた低線量率リスク解析

鶴岡 千鶴 氏(量研・放医研 放射線影響研究部)

(5) *Apc*^{Min/+}マウスを用いた低線量・低線量率放射線発がんリスク評価

笹谷 めぐみ 氏(広島大学 原爆放射線医科学研究所)